

実践団体情報

記入日	2020 年 12 月 23 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	京都市立正親小学校
代表者名	校長 辻元 博子
プラン全体のタイトル	守るぞ正親のまち ぼくらジュニア防災隊 もしも大災害が起こったら、ぼくは生きる、みんなを守る
電話番号	075-451-0091
メールアドレス	h-tsujimoto@edu.city.kyoto.jp
実践団体の説明	京都市立正親小学校 5 年生を中心とした取組 京都市の番組小学校、今年 150 周年を迎えました。路地がたくさんある密集市街地での防災に取り組めます。
所属メンバー	正親小学校 校長 辻元 博子 5 年担任 葉武 佐加恵 その他教職員
活動地域	京都市立正親小学校の校区
活動開始時期・結成時期	2017 年に開始
プラン全体の概要	本団体の取組は小学校の 5 年生の総合的な学習の時間での取組である。本校の存在する場所が京都の市街地で古くからの町家が立ち並び、4 m 以下の路地が 70 以上あり、そのほとんどが袋小路になっている密集市街地である。地域の役員さんも防災に重きを置いている。そこで本単元は防災をテーマにして地域を調べ、その課題に気付き、自分たちも役に立つことをしたいと考え実践する単元である。それによって社会参画し、さらに地域が好きになってほしいと考える。 ステージ① 「災害・防災ってなんだろう。」 ○区役所の方に話を聞こう…自助・共助・公助 ○消防団の方の話を聞こう…備え・訓練 ○AED や消火器が使えるようになろう。 ○持ち出しに何を入れるか考えよう。

ステージ② 「防災の方法を探究しよう。」

- 防災に強い町や、家ってどんなのだろう。
- 通学路が安全か確かめに行こう。
- 地域の人と一緒に町歩きをして安全かどうかを確かめよう。
- 防災マップを作ろう。
- 防災かまどを作ろう。

**ステージ③ 「もしも大きな地震が起こったら…」を提案しよう
もしも地震が起こったら、どうすればよいのだろう。**

- もしも、地震が起こったら、何が使えよう。
- お年寄り体験をして災害弱者について考えよう。
- 何月何日 何時に ○○の状況の時に地震が起こったら…どんな行動をとればよいのだろう。
- 150年記念誌に載せて、みんなに知らせよう。

ステージ④ 守れ、正親。みんなの命を守るため、できることを実践だ。

- 防災について考えたことを低学年や地域の人・保護者に伝えよう。
- ・防災フェスタを計画・実践しよう。
(すごろく・トランプ・迷路)
- ・プロジェクトXに参加して伝えよう。
- ・自分たちで作ったかまどを使って炊き出しをして地域の人にふるまって防災の大切さを伝えよう。
- 5年生が主催する避難訓練をしよう。

ステージ⑤ 子ども防災隊発進

- 自分たちの成長を振り返ろう。
- もしも、二日後に大地震があることが分ったら、今、何をすればいいだろう。
- 今後に生かせることを考える。

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	プラン立案	ステージ1の人と調整	
5月		かまど修理の打ち合わせ	区役所・消防署分団・竈作成
6月		ステージ2の人と調整	通学路調査・町歩き
7月			防災マップ作り
8月	二学期分プラン練り直し	ステージ3の人と調整	
9月			防災教室
10月	中間発表		もしも…を考える
11月			防災新聞作成
12月	ミッションX計画	ミッションX打ち合わせ	
1月	防災フェスタ計画	防災フェスタ準備	ミッションX実施
2月	シェイクアウト計画	シェイクアウト準備	防災フェスタ実施
3月	まとめ・実践の振り返り		シェイクアウト実践

プラン全体の反省点・課題・感想	○実際の被災者による講演をぜひ来年は実現したい。 ○高齢者体験を補足したため子どもたちの思考が変化した。 ○地元の問題点を知り、自分たちで何とかしようと様々な方策を考え、それを実践することで、社会参画することができ、自己肯定感や自己有用感を味わうことができた。さらに、今後の自分たちのすべきことにまで目を向けていくことができた。地元は応援だけでなく、逆に刺激を受けてくれたことは成果であると考えている。 ○ミッションXを企画し、保護者・児童・幼児などだけでなく地域の住民も参加してもらうことで、地域の路地がたくさんあり、一つ一つに名前がついていること、奥に通り返られるドアや路地の入口の補強などの防災の対策など努力されていること、さらには自分たちの命は、自分たちで守らなければいけないことなどを伝えられたことは大いなる成果である。
-----------------	---

今後の活動予定	この後児童による防災フェスタを開催し，低学年や社会参画のできる活動をする。来年継承・発展させていく。
---------	--

実践したプランの内容と成果

記入日	2020 年 1 月 7 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	京都市立正親小学校
実践番号	①
タイトル	守るぞ正親のまち ぼくらジュニア防災隊 もしも大災害が起こったら、ぼくは生きる、みんなを守る ステージ①「災害・防災ってなんだろう。」
実践担当者のお名前	辻元 博子 葉武 佐加恵

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	8 時間
実践活動を実施した日時	2019 年 4 月～2019 年 5 月
実践の所要時間	7 時間
実践の運営側で動いた人の人数	10 人
防災教育の対象者の属性	小学生（高学年）
防災教育の対象者の人数	約 36 人
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市
実践を行った具体的な場所	京都市立正親小学校 教室・校庭
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	消防士・P C・消防倉庫の中身・A E D・消火器

達成目標	災害が身近なものであること、いつ何があるかがわからないことなどを知るとともに、災害から守ろうとしている人がいることやそれぞれの人の思いを知り、これからの学びの主体性を生むことができる。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

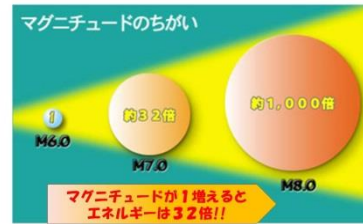
実践内容・方法

○区役所の方に話を聞こう…自助・共助・公助

最初に区役所の人に災害とはどんなものか、防災って何かについてのお話を聞く。震度とマグニチュードの違いについて絵を使ってわかりやすく教えてもらう。次に地震が起きた時の一時災害・二次災害についての話、そして阪神淡路大震災の時の写真や映像など話を聞いた後、自助・共助・公助という言葉とともに、自分たちにできることを投げかけてもらった。そして、共助として身近に消防分団の人がいることを教えてもらった。

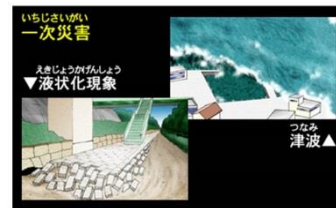
今日のお話

- 1 震度(しんど)とマグニチュード
- 2 地震が起きると
- 3 阪神・淡路大震災
- 4 わたしたちができること



震度(しんど)とマグニチュードの関係

電球→マグニチュード
明るさ→震度



3 阪神・淡路大震災



4 わたしたちができること



自助・共助・公助

- 自助(じじょ)
・「自分の命は自分で守る」
・事前の備え
→非常持ち出し袋や非常食の準備
→家具の転倒防止など
・自助は防災の基
→まずは自分を守る!
→家族や友達、隣の人を助けにいくことができる!



「助けられる人」でなく、「助ける人」になる!

○消防団の方の話を聞こう…備え・訓練

区役所の人に聞いた正親の町の消防分団の人の話を聞き、訓練の様子や、防災倉庫の中身を見せてもらった。その中で、「君たちも消火器くらいは使えるようになってほしい。」「AEDは子どもでもできる。」と言うことを聞き、自分たちもしたくなった。

	○ A E Dや消火器が使えるようになろう 自分たちもA E Dや消火器が使えるようになりたいと消防署の人に来てもらうことになった。 ○ 持ち出しに何を入れるか考えよう						
得られた成果	今まで他人事だった災害について話を聞き、防災にかかわっておられる方から話を聞いたり、その体験をしたりする中で、災害を自分事としてとらえるようになってきた。また、自分たちに何かできることがありそうだと、さらに調べていきたくなってきた。						
どのくらい身につきましたか？	<table> <tr> <td data-bbox="485 1339 836 1393">知識・技能</td><td data-bbox="836 1339 1436 1393">大いに</td></tr> <tr> <td data-bbox="485 1393 836 1447">思考力・判断力・表現力</td><td data-bbox="836 1393 1436 1447">大いに</td></tr> <tr> <td data-bbox="485 1447 836 1500">学びに向かう力・人間性</td><td data-bbox="836 1447 1436 1500">大いに</td></tr> </table>	知識・技能	大いに	思考力・判断力・表現力	大いに	学びに向かう力・人間性	大いに
知識・技能	大いに						
思考力・判断力・表現力	大いに						
学びに向かう力・人間性	大いに						
課題・苦労・工夫	教師が路線を引くのではなく、子どもがやりたくなるように単元の流れについてゲストティーチャーと事前の打ち合わせを綿密にし、「○○をしてみたら？」「○○にお話を聞いて、道具を見せてもらってごらん。」「A E Dも使えるようになってほしい…」など次に体験させたいことについての提案をしていただくなど、児童の方が自らがしたくなるように、体験を重ねることができるようにした。また、切実感を持たせる体験と楽しくなりめりこむ体験の両方を組み合わせていくことを工夫した。						

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	京都市上京消防署北野出張所（木下）
関係者の説明	A E Dの使い方・消火器の使い方
関係者の連絡先	075-465-0119
関係者の名前・団体名	正親消防分団 野村 重夫
関係者の説明	地元の消防団の分団長
関係者の連絡先	075-431-2740
関係者の名前・団体名	上京区役所 平田幹生係長
関係者の説明	総務防災担当
関係者の連絡先	075-441-5029

記入日	2020 年 1 月 7 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	京都市立正親小学校
実践番号	②
タイトル	守るぞ正親のまち ぼくらジュニア防災隊 もしも大災害が起こったら、ぼくは生きる、みんなを守る ステージ②「防災の方法を探究しよう」
実践担当者のお名前	辻元 博子 葉武 佐加恵

実践にかかった金額	200000 円
実践の準備にかかった時間	10 時間
実践活動を実施した日時	2019 年 5 月～2019 年 7 月
実践の所要時間	9 時間
実践の運営側で動いた人の人数	20 人
防災教育の対象者の属性	小学生（高学年）
防災教育の対象者の人数	約 36 人
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市
実践を行った具体的な場所	京都市立正親小学校 教室・校庭・地域の路地
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	左官・住宅関連・市役所まちづくり課

達成目標	災害に強い町とはどんな町なのか。普段通学している道は安全なのかどうかを調べるとともに、自分たちの住む町が災害に強いのかどうかを実際に町歩きをして調査する。同時に防災かまどを作成する。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

○通学路が安全か確かめに行こう。

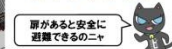
「落ちてこない・倒れてこない・動いてこない」の視点で自分たちの通学路が安全であるかどうか、同じ帰り道の友達と一緒に調査した。「あの場所は危ないな。」「この自動販売機は固定されている。」「ここで地震があったら、ここに逃げるといいな。」など普段見つけれないことまで気が付き、さらに町全体の安全について知りたくなった。



○防災に強い町や、家ってどんなのだろう。

市役所の街づくり推進課の方に「災害に強いということはどういうことか」という話を聞いた。密集市街地という言葉とともに、その良さと問題点を教えてもらい、「まち・みち・ひと」が大切であることを知った。

また、正親の町でも安全な町になるような取り組み（避難扉・路地の入口の耐震化など）に取り組んでおられることを知った。

3 行き止まりの道に
避難扉を設置4 ヒニャン（ひなん）
しやすくなったニャ6 路地の入口を
耐震・防火改修

○地域の人と一緒に町歩きをして安全かどうかを確かめよう

自分たちの地域の良さと課題を知った子供たちは実際に町を調べてみたくなった。そこで、地域の方々に協力をしていただき、防災の視点で街を巡った。普段近所でも袋小路になっている路地などには子どもたちは行かないので、路地奥の空き家の問題や崩れかかっている家など問題点を目の当たりにすることになった。反面、路地の突き当りに抜けられる防災扉が設置されていたり、トンネル路地の入口を崩れにくくなるように補強されていたりするなど、地域が対策をとっていることにも気づいていった。



○防災マップを作ろう。

調べてきた調査をもとに、防災マップを作製し、地域の防災訓練で発表した。地域の人々は子どもたちの発表に食い入るように見ておられ、「気を付けないといけないな。」「よく調べたな。」と感心し、褒めてくださった。



	○防災かまどを作ろう 防災のことに意識が高くなっている子どもたちは校長からの「台風21号で完全につぶれてしまった防災かまどを直してほしい」という要望に二つ返事で承諾し、全部外して、一から組み立て直した。   	
得られた成果	防災に自分事に、本気になって取り組むようになった子供たちは実際の町を歩いて調査することで、「大変だ。何とかしないと、大きな地震が来たらどうしようもない。」そこで、自分たちで何とかできることはないかと言う新たな課題が見つかった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	まちを歩いて調べるのも、それをまとめるのにも思ったより時間がかかる。特に、マップにまとめることは今年度は時間がなかったもので、より良いものとして発表するほどのクオリティーを出すことが難しかった。地元の人に町探検をお願いしたが、人によってまた場所によって話していただく内容が異なり、それを交流することにも時間がかかった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	サンワコン株式会社
関係者の説明	地域がお世話になっているコンサル会社
関係者の連絡先	0776-32-6178 090-2120-6623
関係者の名前・団体名	相澤 恵 京都市役所都市計画局 まち再生推進室
関係者の説明	住みよいまちづくり・災害に強いまち・みち・家について
関係者の連絡先	075-222-3503

記入日	2020 年 1 月 7 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	京都市立正親小学校
実践番号	③
タイトル	守るぞ正親のまち ぼくらジュニア防災隊 もしも大災害が起こったら、ぼくは生きる、みんなを守る ステージ③「もしも大きな地震が起こったら…」を提案しよう
実践担当者のお名前	辻元 博子 葉武 佐加恵

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	4 時間
実践活動を実施した日時	2019 年 9 月～2019 年 12 月
実践の所要時間	9 時間
実践の運営側で動いた人の人数	10 人
防災教育の対象者の属性	小学生（高学年）
防災教育の対象者の人数	約 36 人
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市
実践を行った具体的な場所	京都市立正親小学校 教室・校舎
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	高齢者体験グッズ・防災ゲーム「ナマズの学校」

達成目標	もしも大きな地震が起こったら、どうすればよいだろう。実際のことを想定し、意見を出し合う中で、実際の起こった場合に少しでもあわてず行動を起こすことができる。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

もしも大地震が起こったら、どうすればよいのだろう。

○もしも、大地震が起こったら何が使えるだろう。

地域の、社会福祉協議会の方が、5年生の防災の取組に参加し、一緒に何かが出れば…と言う提案をいただき、「ナマズの学校」というゲームを通して一緒に考えることにした。

大地震があった時に、担架の代わりにほうきと毛布、紙とビニル袋で食器。などあるもので代用することができることに気が付いた。実際に人を運ぶなど体験することで体感することができた。



○お年寄り体験をして災害弱者について考えよう。

上記の福祉協議会の方に、災害弱者についてお話を伺った。そこで高齢者体験をすることになった。

最初に包括支援センターの方から、高齢者になるとどんなふうになるかの話を聞いた。高齢者は今のままが一番いいので、動きたがらない人が多い。もし、大地震があった時には、優しくしっかりと「避難しよう。」と呼びかけなければいけない。などの話を聞いた。その後高齢者体験のグッズを身に付け、手足が曲がりにくいサポーターをつけて階段を歩いたり、物を拾ったり、目の視野が狭く色がついているサングラスをかけて本を読んだり、手袋をして紐をくくったり、耳栓を

して話したりするなどの体験をすることで、避難の時には手を引いて相手の速度に合わせてゆっくり歩かなければいけないということに気が付いた。



○オリジナルクロスロードをして考えよう

同じ防災チャレンジプランの鴨沂高校の生徒がクロスロードをしてくれた。究極の選択がたくさんあり、迷う中で、実際の場面だったら…と切実感をもって考えられた。



○「もしも、〇月〇日 〇〇な状況で、大地震が起きたら、どうすればよいのだろう。」

色々な状況で大地震が起きたならば、何をしなければならないか。一人で何をすればよいか考え、それを時系列で並べて考えた。次にグループで考え、それをクラスで考えた。最初は一次避難しか考えられなかった子供たちも回数を重ね、消防署の人や専門家にアドバイスをもらうことで、徐々に様々なことをしなければならない。また、その時と場合に応じて瞬時に判断しなければならない。と考えられるようになった。



6月11日、月曜日朝8時10分、通学中に突然、マグニチュード7の大地震が発生。

古い傷んだ空き家やブロック塀などが道に倒れ、近くにはけがをしている人もいます。

あなたは どうしますか？

12月21日、火曜日の夕方6時、マグニチュード7の大地震が発生。
地震がおさまリ、まわりを見ると、家具は倒れ、食器が散乱している。両親はまだ帰ってきていない。電話(携帯)はつながらず、だれにも連絡ができない。

あなたは どうしますか？

寒さが続く2月28日、土曜日の午後2時、友達の家で遊んでいるとき、突然、マグニチュード7の大地震が発生。

停電になり、テレビや携帯電話が使えない状況。家の中には、子どもと、90歳になる友達のおじいちゃんだけがいる。

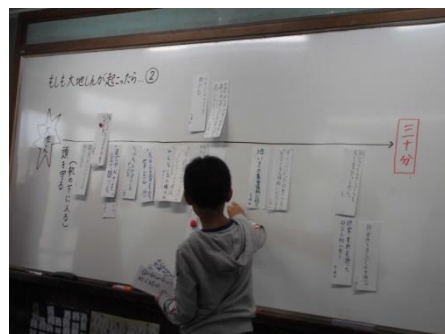
あなたは どうしますか？



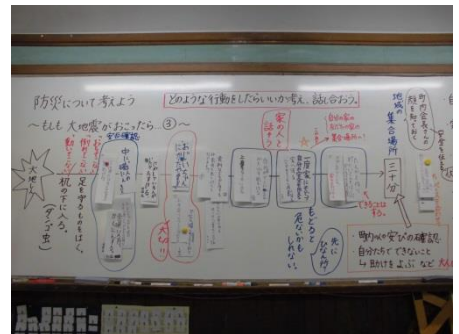
一人で考え、時系列で並べる



グループで持ち寄る



グループで大切だと思うことを三つ選び、全体で時系列に並べる



○防災葉書新聞で150周年の冊子に残し、地域の人に伝えよう。

自分たちの考えたことをたくさんの人に伝えたいと、150周年冊子に載せるため、防災葉書新聞にまとめた。その内容を交流し、それを専門家に見ていただき、「ここまで頑張ったみんなだから、もっとほかの人に直接伝えてほしい。」と言われ、次に何をして伝えようかと考えることにした。



得られた成果

学習を重ねてきた子供たちだが、「もしもシリーズ」を考える前は漠然と一次避難のことしか頭がなかったことに気付いた。これでは助からないと考え、いろいろな想定で考えなければいけないことに気付いた。また、正しい正しくないはその時によって変わるので、その場で瞬時に判断をすることが重要であることに気付いた。

どのくらい身につきましたか？

知識・技能

大いに

思考力・判断力・表現力

大いに

学びに向かう力・人間性

大いに

課題・苦労・工夫

もしも…と想定することは大切であるがそれぞれが考えていることの想定をそろえることが難しかった。さらに、一次避難からなかなか飛び出せない子どもも多かった。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	乾隆包括支援センター 児島 薫 センター長
関係者の説明	お年寄りとはどんなことが困るのかをお話し
関係者の名前・団体名	上京社会福祉協議会 桜井
関係者の説明	高齢者体験
関係者の連絡先	075-432-9535
関係者の名前・団体名	サンワコン株式会社
関係者の説明	地域がお世話になっているコンサル会社
関係者の連絡先	0776-32-6178 090-2120-6623

記入日	2020 年 1 月 7 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	京都市立正親小学校
実践番号	④
タイトル	守るぞ正親のまち ぼくらジュニア防災隊 もしも大災害が起こったら、ぼくは生きる、みんなを守る ステージ④「みんなの命を守るため、自分たちにできることを実践しよう」 ステージ⑤「守れ、正親 ジュニア防災隊 発進
実践担当者のお名前	辻元 博子 葉武 佐加恵

実践にかかった金額	10000 円
実践の準備にかかった時間	10 時間
実践活動を実施した日時	2019 年 12 月～2020 年 2 月
実践の所要時間	13 時間
実践の運営側で動いた人の人数	40 人
防災教育の対象者の属性	幼児・小学生全学年・保護者・地域住人
防災教育の対象者の人数	約 100 人
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市
実践を行った具体的な場所	京都市立正親小学校 教室・校庭・グラウンド・体育館・ 地域路地その他

達成目標	今まで学んで考えたこと、伝えなければならなかったことを低学年・地域の住人・お年寄り・保護者などいろいろな人に伝える。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	防災について考えたことを低学年や地域の人・保護者に伝えよう。 ○防災フェスタをしよう。（低学年に）・お年寄りに・保護者に） 地震が起こったら…「まずは自分で自分の命を守らなければならないこと、そして助かったら、次は自分が他の人を守る。そのために必要なこと、できることは…」とまずは焦点を低学年において、伝えたい	

内容を考え、それが一番伝わる方法をグループで話し合った。社会参画の場面である。

カルタで

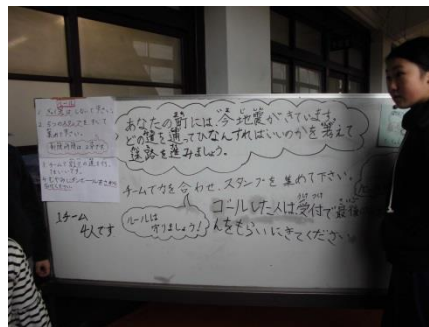


「カルタをするだけでは分かったかどうかわからないので、クイズもした方がいい。」など前向きな意見が聞かれた。

すごろくで



迷路で



自分たちで想定した避難訓練



ミッションXで

自分たちで何ができるかを考えた時に
出てきたアイデアから、日曜日に
ミッションXを計画した。

その時のクイズは5年生が考えた。

右は昨年度銘板を付けたが、子どもたち
にあまり浸透していない。そこで、
ミッションXを計画した。

正親学区の71路地に愛称



ねらい

- 路地に名前がついていることや、その路地が袋小路か
抜け路地かが路地の銘板を見ればわかることを知る。
- クイズや暗号を解くことで、楽しんで防災に取り組み防
災意識が高まる。
- 路地の良さや危険性、そして改善しているところを知る
- 大地震があった時、近所の高齢者に「大丈夫？」と声
をかけることができる

○ミッション

ハンターに見つからないように地図を手掛かりにいろいろな
路地を巡り、そこに書かれているたくさんのミッションや、ク
イズ・暗号を解いて、ミッションをコンプリートしよう。ハン
ターに見つかり、魂を取られたグループは体育館でAEDを使
って人を助け、魂をもらってミッションをクリアしよう。

ミッションX



○○ ミッションX②



AEDを使って
人を助けよう
助けられたら一人
一枚魂がもらえる

○○ ミッションX③



小竹さんのお宅をノッ
クし「おじいちゃん、お
ばあちゃん元気？」
と言う。
「元気だよ。」
と言うと握手
する。

○○ ミッションX④



クイズ
ここは非常の時の
とびらです。開け
て向こう側に行つ
て指令にしたがえ。

○○ ミッションX⑤



クイズ
人がたおれています。
運びたいのですが、何を使えば
運べますか。
次の中から二つ選べ
①ほうき ②新聞 ③冷蔵庫
④毛布

○○ ミッションX⑥



クイズ
この路地の名
前は何か。

○○ ミッションX⑦



クイズ
ここは、災害に強くなるために
作り直された。どこが良くなつ
たのか、答えよ。
A「へい」が倒れそうなので、
低い「へい」にした。
B 路地の入口がつぶれそうだ
から、強い入口にした。
C 道幅が狭いので、広げて入
りやすくした。

○○ ミッションX⑨



クイズ
路地の看板を見るだけで、この先
が行き止まりの袋小路の路地か、
通りぬけできる路地がわかります。
どこを見ればよいでしょう。

○○ ミッションX⑩



クイズ
地震が起きた時最初に行
く場所はどこ？
①避難所（ひなんしょ）
②地域の集合場所
③友達の家

○○ ミッションX⑪



ミッション
ここは町内の避難場所で
す。大地震があつたら、
30分をめどに集まりま
しょう。自分の町内の避
難場所を家に帰ったら、
確認しておきましょう。

○○ ミッションX⑫



暗号 ぼ
大地震が起きてひなんする
とき一番下の子が手をガラ
スで切った。今持っているも
ので手当てをせよ。そしてそ
の手当を近くの見守り隊に
見ってもらい、サインをもらお
う。

○○ ミッションX⑬



暗号 う
クロスロード（究極の選択）
おばあちゃんと二人だけの時に大
地震が起こりました。あなたはど
うする？
①おばあちゃんを置いて避難する
②おばあちゃんと一緒に避難する
③助けを呼びに行く。

○○ ミッションX⑭



クイズ
路地の名前の○○路地と
○○小路はどう違う？
①路地は太い道 小路は細い道
②小路は通り抜けられる道 路地
は行き止まりの道
暗号 さ

○○ ミッションX⑮



クイズ
「自助」って何？
①友達を助ける
②救急隊にたすけてもらう
③自分で助かる
暗号 い





A E Dと心肺蘇生法学ぶ



途中問題を解いて…



ハンターに見つからないように



お宅訪問して握手してもらう



路地の銘板にクイズを書いて



通り抜けられる非常扉

子どもたちは、路地の銘板を見れば、名前だけでなく、その路地が通り抜けられるかどうかがわかること、路地の突き当りに通り抜けられるような扉がついているところがあること、A E Dの使い方・地域の集合場所・もしも地震が起こった時に代用できるものなど様々な問題を解くことで、楽しんで路地を巡ることができた。また、当日はハンターとしてP T Aの応援を公募し、見守り隊には保護者や地域の役員さんたちも参加してくださり、地域ぐるみで一大イベントとし総勢110人以上の参加者を得て町中で楽しんだ。保護者も子どもも、幼児まで楽しんで活動することができた。イベントごとのアンケートで

	は、保護者も子どもも「知らないことがいっぱいあった。」「近くなのに、入ったことの無い路地がいっぱいあった。」お宅訪問をして、握手を求めた高齢者の方は、「普段は静かなので、子どもたちがこんなに訪ねてきてくれてうれしい。」とお話をしてくださった。 ステージ⑤ 守れ、正親 ジュニア防災隊 発進 ○もしも、二日後に大地震があることがわかっているならばどうすればよいかを考える。 ○今までの学びと自分の成長を振り返り、これからの自分の生き方につなげていく。	
得られた成果	自分たちが知ったこと、学んだこと、大切なことを伝えたいと、子どもたちの目の色が変わっていった。自分たちのしていることで社会に役立つこと、社会参画できている自己肯定感で子どもたちは生き生きと活動することができた。低学年や地域の方に楽しんでもらいながら、自分たちの学んできたことを伝えられるように授業中だけでなく休み時間も準備に取り組んでいた。ミッションXは保護者や地域のみんなを巻き込み、総勢100名以上の参加となった。まだ、説明段階であるものの「自分たちも知らないことがいっぱいあった。」「子供たちに教えてもらっている」「とても良い取り組みである。ぜひ続けてほしい。」と絶賛されている。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	防災フェスタ・避難訓練は準備時間が学習の時間だけでは足りず、休み時間や放課後にも頑張っていた。それだけにやりがいもあったようである。ミッションXは初めての試みであるが保護者の協力も得て、安全に取り組みそうである。ただ、働き方改革が叫ばれている現在、教員に休日出勤をお願いしなければならないのが問題である。来年にはこのノウハウをPTAやおやじの会に渡し、おやじの会が主催になってもらえるように支援してもらえないかと算段している。	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	正親の地域住民全体
伝えたい内容	自助・共助の重要性と地域で顔と顔が近付く組織づくりをしていって欲しい。